

樽前山

1 概況（平成14年9月）

今期間、顕著な地震増加などは見られませんでした。1996年以降地震活動が活発化しており、A火口をはじめドーム周辺では熱的活動が活発な状態となっていることから、火山活動の推移に注意が必要です。

2 噴煙活動の状況

A火口、B噴気孔群とも噴煙の高さは概ね100m以下、E火口では一時200mの噴煙を観測しました。いずれも勢いは弱く通常の活動の範囲です。

3 地震活動の状況

地震回数は1日あたり0~4回で推移し、顕著な地震の増加はありませんでした。震源はほとんどが従来と変わらず山頂火口原の浅いところと推定されます。火山性微動は観測されていません。

月別地震・微動回数（C点）

平成13~14年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数	101	56	108	53	65	61	41	99	74	50	40	25
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。

5 火口・地熱域の状況

9月11~12日に調査観測を行いました。A火口、B噴気孔群では高温の状態を維持しています。なお、9月10~11日に実施した無人ヘリコプターによる観測結果については、現在データを解析中です。

【B噴気孔群】

一部の噴気孔では砂を数cmの高さに噴き上げる活発な活動が続いており、周辺には鮮明な黄色の硫黄昇華物が付着しています。最高温度は359で、今年5月(293)より上昇しました。B噴気孔群で温度が300を超えたのは1984年以来のことです。なお、赤外熱映像観測*によると地熱域の拡大は認められません。

【A火口】

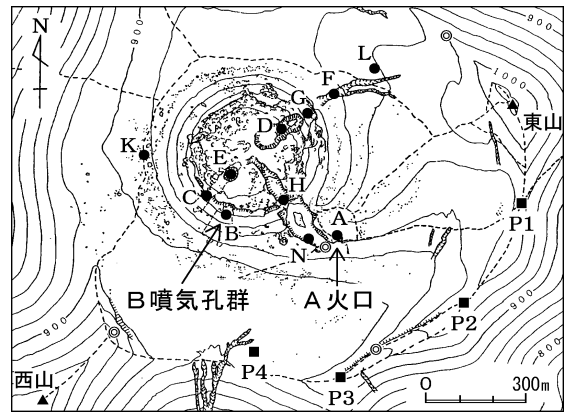
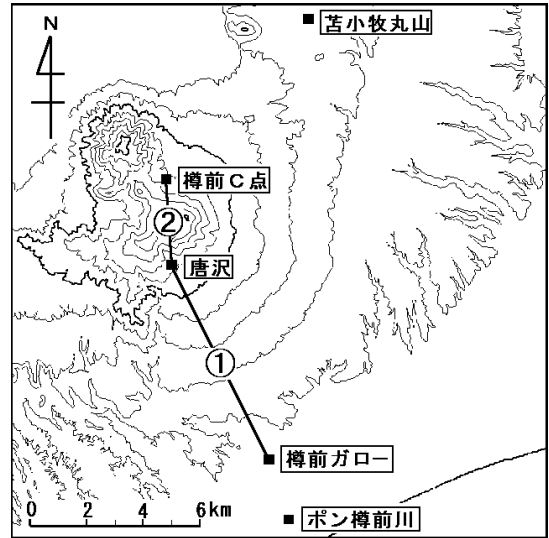
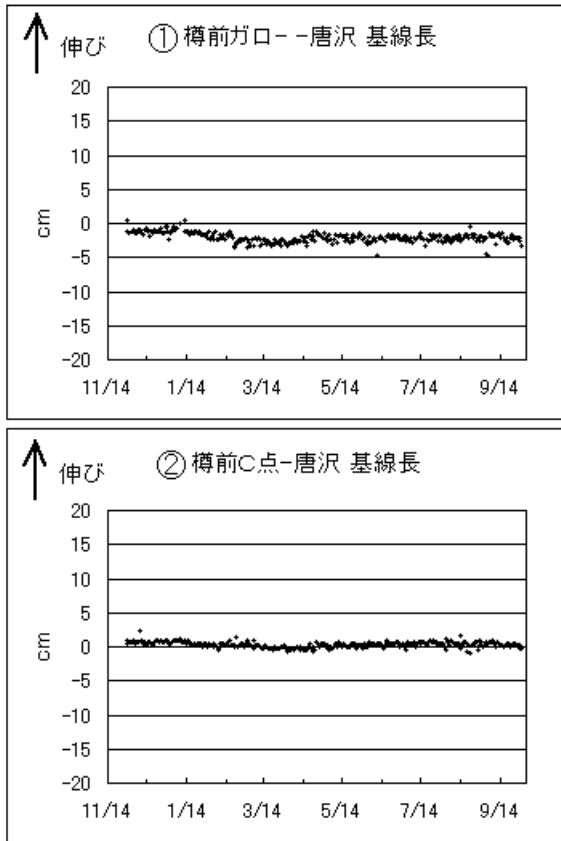
透明~白色の噴煙が低い音とともに噴出しています。火口南側30mの定点から赤外放射温度計**で測定した火口の温度は157でした。定点からの温度は昨年と比較して低下していますが、これは火口壁が一部崩落して土砂が堆積し、噴出口付近が直接見えなくなったことによります。堆積物の影響がない地点から測定した温度は400以上あり、引き続き高温であることを確認しました。

* 赤外熱映像装置

赤外放射温度計と同様の原理で温度を面的に捉える遠隔測定装置。火山では地熱分布等を把握するために利用される。値は測定条件や距離によって変わり、実際の温度とは必ずしも一致しない。

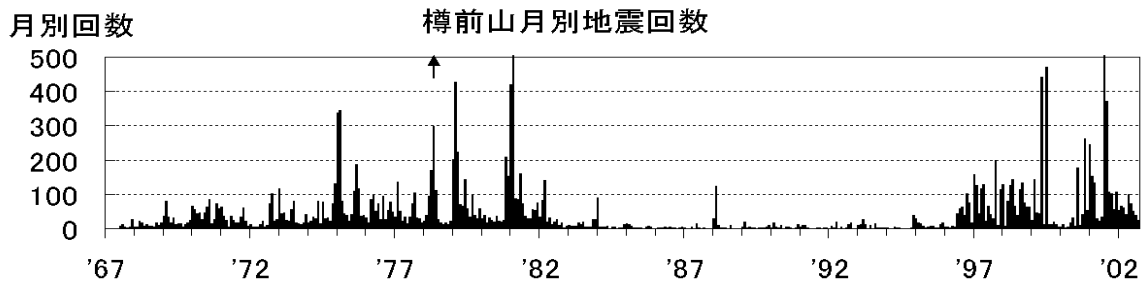
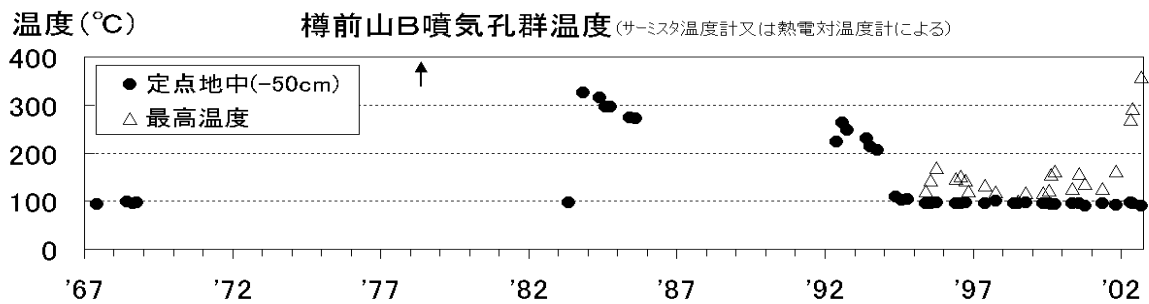
** 赤外放射温度計

物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などでははっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

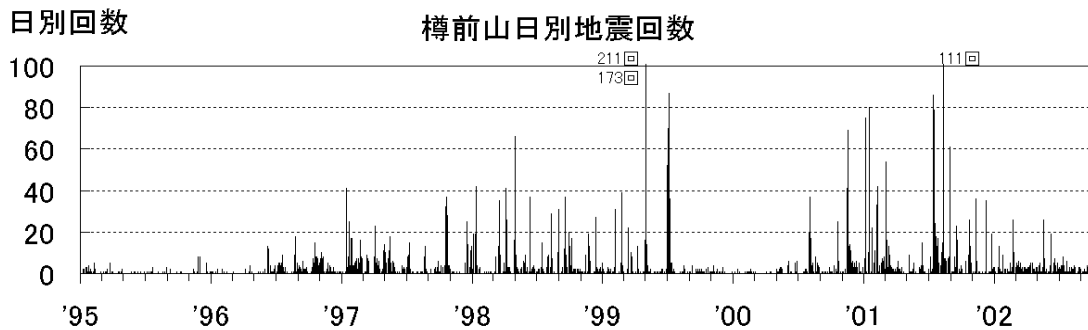
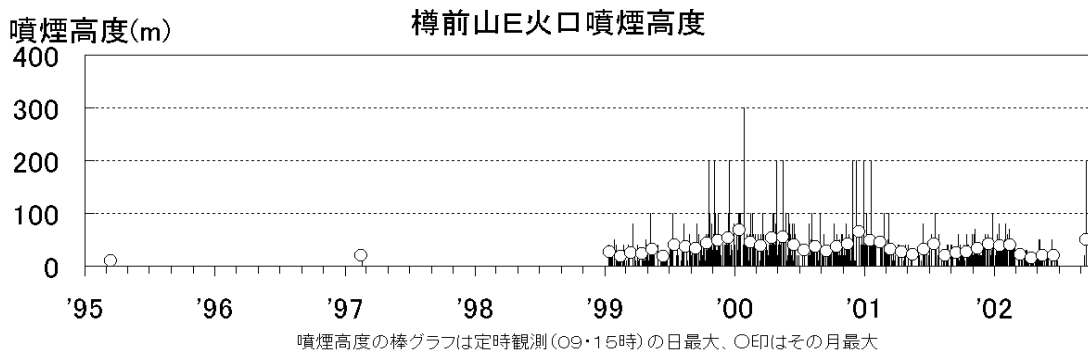
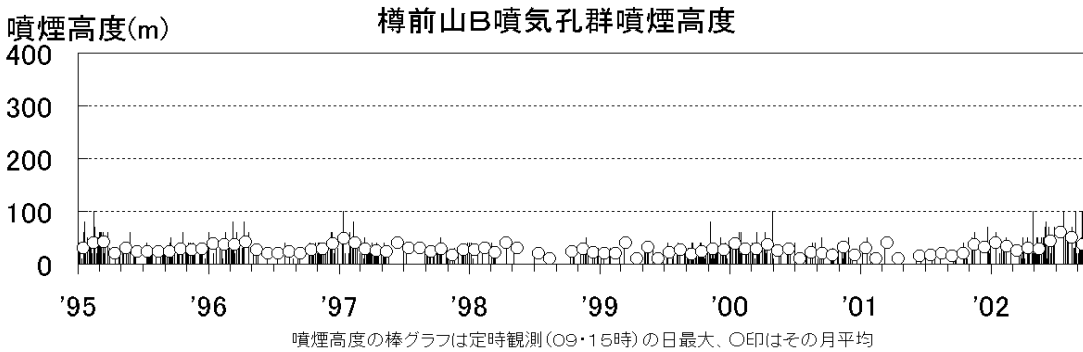
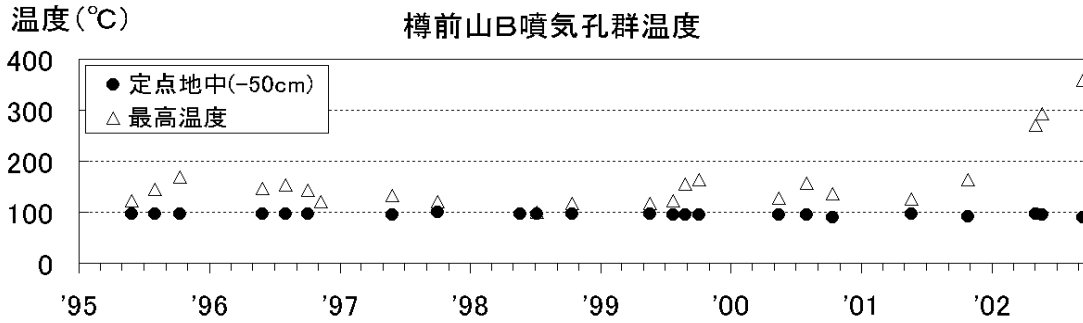
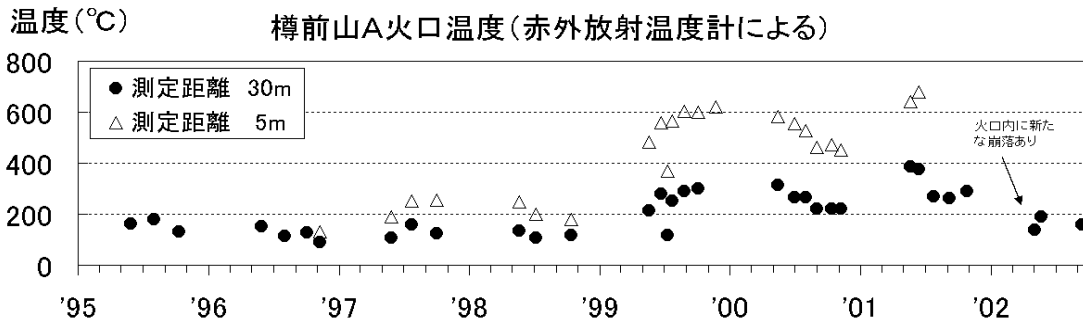


樽前山基線長グラフ(2000年11月14日~2002年9月30日)

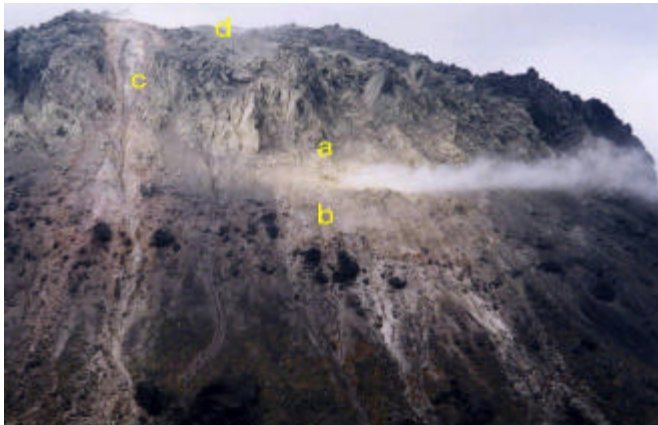
山頂周辺図



樽前山火山活動経過図(1967年1月~2002年9月) 印は噴火



樽前山火山活動経過図(1995年1月1日~2002年9月30日)



ドーム南西噴気孔群と
ドーム南西亀裂

撮影：2002年9月11日

西山尾根から撮影

距離：約500m

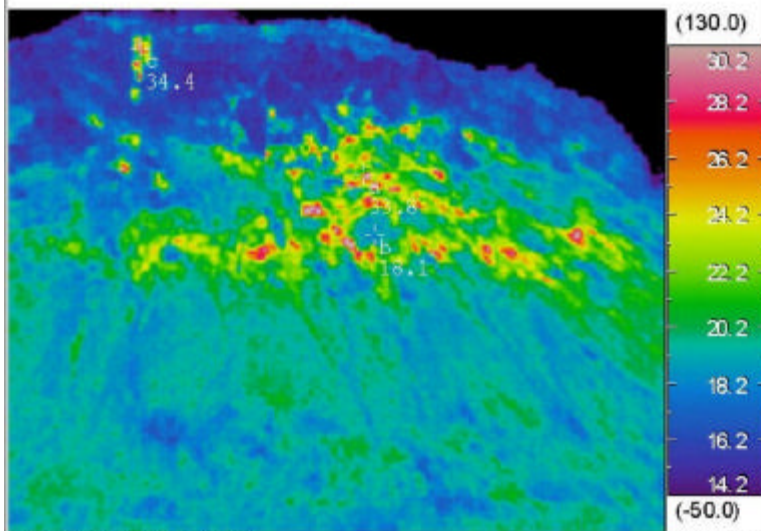
a：ドーム南西噴気孔群

b：低温域

c：ドーム南西亀裂

d：ドーム南西火口の噴煙

RG:1ε:0.90 SC: NCRM 02/09/11 12:55:15



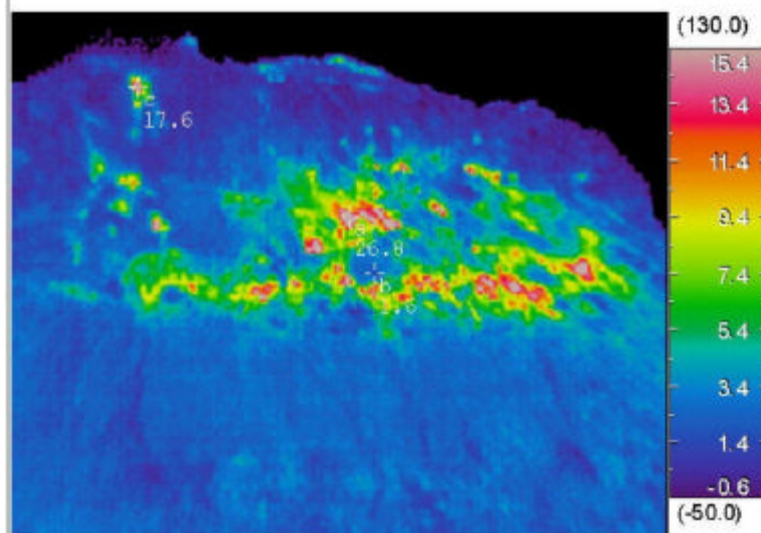
赤外熱映像

撮影：2002年9月11日
12時55分

天気：曇り

気温：19℃

RG:1ε:0.90 SC: NCRM 01/10/26 12:53:06



赤外熱映像

撮影：2001年10月26日
12時53分

天気：曇り

気温：3℃

西山から見たドーム南西噴気孔群(B噴気孔群)

中段：熱映像2002年9月11日

下段：熱映像2001年10月26日